

科目区分	専門分野	単位数・時間数	1 単位・30 時間	開講時期	2 年 前・後期
授業科目名	母性看護学概論			授業形態	講義
担当教員	是沢アイ		実務経験	○助産師	
授業概要	母性看護の基盤となる概念を、母性看護を実践するうえでの考え方や方向性と関連づけて理解し、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と次世代の健全育成をめざす看護について考える。母性看護の特徴を理解し、思春期、子育て期、更年期における看護の考え方及び今日的な母性に関する社会的問題を倫理に関連づけて学ぶ。				
学習目的	少子傾向の定着、女性のめまぐるしい社会進出などの社会情勢の変化により子を生み育てることの価値観が多様化している現実を理解し、その過程における健康の維持増進を図るとともに女性の権利としてのリプロダクティブヘルス／ライツの概念を学ぶ。さらに女性および家族のライフサイクルや健康な生殖過程を学ぶ。また、生殖技術の進歩による生命倫理の新たな構築の視点を学ぶ。				
到達目標	1 生命の誕生を通し、種族保存の意義、「生命尊重」「生命倫理」について考える。 2 母性を取り巻く社会状況の変化を知り、現代社会における母性の概念を理解する。 3 母性看護の変遷・動向を理解し、母性看護の役割および今後のあり方について理解する。				
授業内容	1・2 人間の性と生殖（受胎について・女性の権利・セクシュアリティ） 3・4 人間の性と生殖（性の健康・性感染症） 5・6 母性看護の概念（ウィメンズヘルスの定義・リプロダクティブヘルス／ライツ） 7・8 母性看護の概念（ヘルスプロモーション・ジェンダー・性の多様化） 9・10 母性を取り巻く社会的動向（女性のライフサイクルと家族・母子関係と愛着） 11・12 母性を取り巻く社会的動向（女性の健康のアセスメント・メンタルヘルス・不妊） 13・14 ライフサイクル各期における対象の特徴と看護（女性のライフサイクル各期の健康課題と看護） 15・16 ライフサイクル各期における対象の特徴と看護（女性の健康と制度） 17・18 母性看護の倫理（母性看護における倫理的課題・出生前診断） 19・20 母性看護の倫理（生命倫理と女性の自己決定） 21・22 女性を取り巻く社会的動向（父親の役割・虐待、DV・母乳育児） 23・24 女性を取り巻く社会的動向（子育て支援・現代社会における課題） 25・26 母性看護の制度と法律（女性の健康と制度・母子保健統計） 27・28 母性看護の制度と法律（法律・周産期医療のシステムと母子保健施策） 29・30 関係法規の抄録 終講試験				
評価方法	筆記試験・課題レポート・出席状況・受講態度等により総合的に評価する。				
教科書	専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論 第14版 第3刷 / 医学書院2025				
参考図書 等					
備考					